

## [72] 哲學年報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26274>

---

出版情報：哲學年報. 72, 2013-03-11. 九州大学大学院人文科学研究院  
バージョン：  
権利関係：

細川亮一教授退官記念特輯





細川亮一教授



細川亮一教授 略歴

生年月日 昭和二年一〇月四日

昭和四十五年 五月 東京大学文学部卒業

昭和四十七年 三月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専門課程修士課程修了

昭和五十年 三月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専門課程博士課程単位取得退学

昭和五十二年 四月 山口大学文学部講師

昭和五十四年 四月 山口大学文学部助教授

昭和五十四年 四月 九州大学文学部助教授

平成 五年 五月 九州大学文学部教授

平成 十二年 四月 九州大学大学院人文科学学院教授

平成二十四年 三月 九州大学大学院人文科学学院を定年により退職

平成二十四年 四月 九州大学名誉教授

非常勤講師 東北大学、新潟大学、東京大学、大阪大学、神戸大学、山口大学、熊本大学

## 細川亮一教授 業績目録

### 単 著

- |   |                       |         |          |
|---|-----------------------|---------|----------|
| 1 | 『意味・真理・場所―ハイデガーの思惟の道』 | 創文社     | 一九九二年 二月 |
| 2 | 『ハイデガー哲学の射程』          | 創文社     | 二〇〇〇年 二月 |
| 3 | 『ハイデガー入門』             | 筑摩書房    | 二〇〇一年 一月 |
| 4 | 『形而上学者ウイトゲンシュタイン』     | 筑摩書房    | 二〇〇二年 一月 |
| 5 | 『ヘーゲル現象学の理念』          | 創文社     | 二〇〇二年 九月 |
| 6 | 『アインシュタイン 物理学と形而上学』   | 創文社     | 二〇〇四年一〇月 |
| 7 | 『純化の思想家ルソー』           | 九州大学出版会 | 二〇〇七年 七月 |
| 8 | 『道化師ツアラトウストラの黙示録』     | 九州大学出版会 | 二〇一〇年 六月 |
| 9 | 『要請としてのカント倫理学』        | 九州大学出版会 | 二〇一二年 三月 |

### 編 著 書

『幸福の薬を飲みますか？』

ナカニシヤ出版

一九九六年 三月

### 共 著

- |   |                                  |                                |          |
|---|----------------------------------|--------------------------------|----------|
| 1 | 『ハイデガー「存在と時間」入門』                 | 有斐閣                            | 一九八〇年 八月 |
| 2 | 『トポス 空間 時間』（新岩波講座哲学七）            | 講談社学術文庫                        | 二〇一一年 一月 |
| 3 | 『フッサール現象学』                       | 岩波書店                           | 一九八五年 六月 |
| 4 | 『文化と人間』                          | 勁草書房                           | 一九八六年 九月 |
| 5 | <i>Phänomenologie der Praxis</i> | 九州大学出版会                        | 一九八九年 五月 |
| 6 | 『死』（現代哲学の冒険一）                    | Königshausen & Neumann<br>岩波書店 | 一九八九年 三月 |

- 7 『ハイデッガーを学ぶ人のために』 世界思想社 一九九四年一月
- 8 『国家を読む』 情況出版 二〇〇〇年六月
- 9 『ヘーゲル以後フッサールまで』(講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ) 理想社 二〇〇六年一月

翻訳

ハイデッガー『真理の本質について』(ハイデッガー全集 第三四卷) 創文社 一九九五年七月

論文

- 1 『イデーオンⅡ』の構造と現象学 『理想』第四七六号 一九七三年一月
- 2 『存在と時間』の基礎構造 『哲学』第二四号 一九七四年五月
- 3 現象学の再検討 『情況』(現象学特集) 一九七五年一月
- 4 ヘーゲルとフッサール——「現象学」概念をめぐって 『思想』第六二五号 一九七六年七月
- 5 心理学を越える道 『哲学雑誌』第九二卷第七六四号 一九七七年一月
- 6 『パンセ』における秩序 『山口大学文学会誌』第二八号 一九七七年一月
- 7 現象学の現象学——『知覚の現象学』における還元 『思想』第六五二号 一九七八年一月
- 8 カント倫理学における「理性の事実」 『哲学年報』第三九輯 一九八〇年三月
- 9 弁証法と経験 『哲学論文集』第一六輯 一九八〇年九月
- 10 個体と特殊者 『哲学雑誌』第九五卷第七六七号 一九八〇年一月
- 11 実体と主体 『哲学年報』第四〇輯 一九八一年三月
- 12 存在論としての『存在と時間』 『哲学年報』第四一輯 一九八二年三月
- 13 形而上学としての『存在と時間』 『哲学年報』第四二輯 一九八三年一月
- 14 『省察』における「私の存在」 『哲学年報』第四三輯 一九八四年二月
- 15 ハイデッガーと形而上学の問題 『哲学論文集』第二二号 一九八六年九月
- 16 “Sein und Zeit” als “Wiederholung” der Aristotelischen Seinsfrage *Philosophisches Jahrbuch*, 94, Jahrgang 一九八七年
- 17 原理理論としての特殊相対性理論 『哲学年報』第四七輯 一九八八年二月
- 18 転回試論 『哲学年報』第四八輯 一九八九年二月





書評

1 G・パークス編『ハイデガーとアジアの思想』

——比較哲学の可能性

『理想』第六三八号

一九八八年 四月

- |    |  |                |          |
|----|--|----------------|----------|
| 42 | 第三のものとしての光                             | 『現象学年報』第二六号    | 二〇〇一年一月  |
| 43 | 道化師ツアラトウストラ                            | 『哲学年報』第六〇輯     | 二〇〇一年 三月 |
| 44 | ツアラトウストラの動物たち                          | 『哲学年報』第六二輯     | 二〇〇二年 三月 |
| 45 | 永遠回帰の世界                                | 『哲学年報』第六二輯     | 二〇〇三年 三月 |
| 46 | 『精神現象学』の三つの理念（歴史、体系の第一部、導入部）と体系の現象学的危機 | 研究成果報告書        | 二〇〇三年 三月 |
| 47 | 平成一一年度～一四年度科学研究費補助金一般研究(C)(二)          | 『新プラトン主義研究』第二号 | 二〇〇三年二月  |
| 48 | ハイデガー・プラトン・新プラトン主義                     | 『哲学年報』第六三輯     | 二〇〇四年 三月 |
| 49 | 『ツアラトウストラ』における永遠性                      | 『哲学論文集』第四〇輯    | 二〇〇四年 九月 |
| 50 | 没落と大いなる正午                              | 『哲学年報』第六四輯     | 二〇〇五年 三月 |
| 51 | 道化師ツアラトウストラの黙示録                        | 『哲学年報』第六五輯     | 二〇〇六年 三月 |
| 52 | 道化師ツアラトウストラの黙示録としての『ツアラトウストラ』          | 研究成果報告書        | 二〇〇七年 三月 |
| 53 | 平成一六年度～一八年度科学研究費補助金基盤研究(C)             | 『哲学年報』第六六輯     | 二〇〇七年 三月 |
| 54 | 純粹実践理性の根本法則は要請である                      | 『ヘーゲル哲学研究』第二三号 | 二〇〇七年二月  |
| 55 | 『存在と時間』第三編「時間と存在」                      | 『哲学年報』第六七輯     | 二〇〇八年 三月 |
| 56 | コペルニクスの転回——自ら作りうるもののみを洞察する             | 『哲学年報』第六八輯     | 二〇〇九年 三月 |
| 57 | 最高善の促進は要請である                           | 『哲学年報』第六九輯     | 二〇一〇年 三月 |
| 58 | 普遍的法則になることを意志しうる                       | 『哲学年報』第七〇輯     | 二〇一一年 三月 |
| 59 | カントとヒュームと現象学                           | 『哲学年報』第七二輯     | 二〇一二年 三月 |
| 60 | 二〇世紀の形而上学（ハイデガー、ウイットゲンシュタイン、アインシュタイン）  | 研究成果報告書        | 二〇一二年 三月 |

平成二〇年度～二三年度科学研究費補助金 基盤研究(C)

研究成果報告書

- 2 誰もが入り得る「広場の哲学」への招待  
—— 中林肇 『空間と人間』  
【正論】 一九八九年 八月
- 3 M. Kusch 著 記号操作としての言語 対普遍的媒体としての言語  
P. Bricker & R. I. G. Hughes 共編  
【學鏡】 一九八九年 一月
- 4 ニュートン科学の哲学的パースペクティブ  
【學鏡】 一九九〇年 一月
- 5 時代のただ中にある人間として  
—— レーヴィット 『ある反時代的考察』  
【週刊読書人】 一九九三年 二月 一日
- 6 ヘーゲルの新しい解釈空間を開く  
—— 山口誠一 『ヘーゲルのギリシア哲学論』  
【創文】 一九九八年 九月
- 7 独自の視点から解釈 —— ハイデガー 『シェリング講義』  
【週刊読書人】 一九九九年 二月 二七日
- 8 ハイデガー哲学の射程 —— 『古代哲学の根本諸概念』から  
【創文】 二〇〇〇年 一月
- 9 『存在と時間』そのものを可能にした洞察が見出される  
【図書新聞】 二〇〇八年 五月 二四日
- 10 —— ハイデガー 『アリストテレスの現象学的解釈』

シンポジウム提題

- 1 生活世界の問題
- 2 フッサールとハイデガー
- 3 存在論の基礎づけ
- 4 イデア論と『存在と時間』
- 5 ノージックのユートピア論
- 6 現象学の可能性
- 7 第三のものとしての光
- 8 ハイデガー・プラトン・新プラトン主義
- 9 純化の思想家ルソー
- 10 アリストテレス哲学の思弁的な深さと『デ・アニマ』

- 日本現象学会シンポジウム (南山大学) 一九八〇年 五月
- 哲学会シンポジウム (東京大学) 一九八九年 一月
- 日本哲学会シンポジウム (甲南女子大学) 一九九二年 五月
- ハイデガー・シンポジウム (早稲田大学) 一九九三年 七月
- 西日本哲学会シンポジウム (鹿児島大学) 一九九三年 二月
- 九州大学哲学会シンポジウム (九州大学) 一九九九年 九月
- 日本現象学会ワークショップ (関西大学) 一九九九年 一月
- 新プラトン主義協会シンポジウム (東北大学) 二〇〇〇年 九月
- 九州大学哲学会シンポジウム (九州大学) 二〇〇六年 九月
- 日本ヘーゲル学会シンポジウム (東京理科大学) 二〇〇六年 二月